



Synplutonic Dike (同生岩脈)

地殻下部で花崗岩質マグマが発生する時、熱の上昇のみで地殻物質が溶けるか、あるいは玄武岩—安山岩質マグマがマントルを上昇して来て地殻下部を溶かしたかを決定する証拠を示すことは非常にむづかしい。Synplutonic dike は、写真上のように岩脈自身もマグマの流動に伴う変形を受けているので、マグマが固まり始めた頃に貫入した苦鉄質マグマがあったことを示している。もしそうであればマグマが発生しはじめた時にも貫入したかも知れず、いずれにしても花崗岩質マグマ発生機構に有力な情報を提供する。

写真はカナダ、コーストレンジ・バソリスの深部露出している海岸沿いで撮られた。岩脈がブーディン構造を示し、コンピtentな岩脈が塑性流動し、膨縮構造を持つに至ったことを示している。写真左はちぎれた岩脈が原形をよく残している部分のクローズアップで、写真上からは数十mはなれている。写真にみられるように、母岩の花崗閃緑岩中には岩脈と似てかつ同化が進んでいる苦鉄質色有物が多数みられ、苦鉄質岩の貫入は花崗閃緑岩マグマ活動の初期からあったことが予想される。日本語訳としては、同生岩脈は如何なものであろうか。

(工業技術院 石原舜三)

